

5 体育学習

<教科の目標>

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

運動に伴う事故防止には、万全の努力が求められる。しかし、事故を恐れる余り、活動が消極的になっては目標は達成できない。

そこで、様々な危険の要因を把握し、その除去や回避の方法及び対策を徹底する。

(1)体育科における安全管理【未然防止】

<屋外施設（校庭など）の点検項目>

- ・小石、砂利、極端な凹凸がない。
- ・固定施設、運動器具等に、締具のゆるみや腐食による破損がない。
- ・移動式運動器具は、固定されており、倒れる危険性がない。
- ・用具の置き場所が決められ、整理整頓がされており、長期間使用しない用具が放置されていない。

<屋内施設（体育館など）の点検項目>

- ・床面や内壁に浮き、ささくれ、釘等が出ていない。
- ・床面が滑り易くなっていない。
- ・器具、用具等に、締具のゆるみや腐食による破損がない。
- ・用具の置き場所が決められ、整理整頓がされており、長期間使用しない用具が放置されていない。

<プールの点検項目>

- ・無断侵入ができないよう施錠がされている。
- ・水が十分に入っている。
- ・循環装置が正常に作動し、水質が既定の環境衛生基準に合うように保たれている。
- ・プールサイドが滑りやすくなっていない。
- ・排水口及び循環水の取り入れ口のふたがねじ止めなどで確実に固定されている。
- ・プールサイドや壁面等にとがった箇所や危険物などが無い。
- ・使用用具に破損がなく、器具、用具等が整理整頓されている。
- ・プールの使用条件が満たしている。（天気、気温、水温、水深、水質等）

<健康管理における確認項目>

- ・児童の健康状態や心理状態を把握している。
- ・必要に応じて、家庭、校長、副校長、担任、養護教諭との相互の連絡体制が確立している。
- ・病気等で欠席していた児童については、特に配慮して、健康観察を行っている。

(2)体育科各領域における安全管理【未然防止】

体育科指導における共通の事故防止（指導内容）

事故防止 (指導内容)	<ul style="list-style-type: none"> ①髪の色が長い場合は飾りのないゴム等で束ねる。 ②ヘアピンを使用しない。 ③爪を切る。 ④体育着の裾をしまう。 ⑤用具は適切な人数で運搬し、走らない。
----------------	---

①器械運動(器械・器具を使つての運動遊び)

<固定施設を使つた運動遊び>

起こりやすい 事故	<ul style="list-style-type: none"> ・足を滑らせる。 ・手を放し落下する。 ・固定施設から誤つて転落する。 ・不注意により児童同士がぶつかる。
事故防止 (指導内容)	<ul style="list-style-type: none"> ①手元、足元に注意する。 ②手を放さない、また持ち方に気を付ける。 ③周りをよく見る。

<マット運動(マットを使つた運動遊び)>

起こりやすい 事故	<ul style="list-style-type: none"> ・回転時に頸部を捻る。 ・待機児童等とぶつかる。 ・運搬時に転倒する。 ・回転のスピード不足や体のコントロール不足等から、転倒や各部位を捻る。
事故防止 (指導内容)	<ul style="list-style-type: none"> ①一方通行で行う。 ②合図を受けてから取り組む又は、十分な間隔をあけて取り組む。 ③待機や順番待ち、見学時は、マットから十分に距離をとる。

<鉄棒運動(鉄棒を使つた運動遊び)>

起こりやすい 事故	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの練習で手の皮や膝裏の皮がめくれる。 ・手が滑ったり、にぎりが甘かったりして落下する。 ・待機児童等とぶつかる。
事故防止 (指導内容)	<ul style="list-style-type: none"> ①親指を鉄棒に回して握る。 ②鉄棒一連に対して、1～2名で運動する。 ③待機や順番待ち、見学時は、鉄棒から十分に距離をとる。

<跳び箱運動(跳び箱を使つた運動遊び)>

起こりやすい 事故	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び越しに対する恐怖や踏み切り不足等から、転倒や頸部を捻る。 ・跳び箱や踏切板の布が破れていて、指が引っかかったりつまづいたりする。 ・運搬時に転倒したりバランスを崩したりする。
事故防止 (指導内容)	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の技能に合った高さで跳ぶ。(助言する) ②場の点検後、合図を送つてから場を離れる。 ③一連の動き(助走から列に戻る)が交錯しないようにする。 ④跳び箱の1段目は逆さにし、2人で運搬する。

②陸上運動(走・跳の運動、走・跳の運動遊び)

<短距離走・リレー(かけっこ・リレー、走の運動遊び・跳の運動遊び)>

起こりやすい 事故	<ul style="list-style-type: none"> ・全力で走るため、足を滑らせ転倒することがある。 ・他走者と接触し転倒する。
事故防止 (指導内容)	<ol style="list-style-type: none"> ①追い越しの際は外側から行う。 ②他走者に接触をしない。 ③セパレートの場合は、他コースに入らない。 ④バトンパスを終えた児童は、後続の走路妨害とならないよう内側に入る。

<ハードル走(小型ハードル走)>

起こりやすい 事故	<ul style="list-style-type: none"> ・走路や場の不整備、着地時に、足首を捻る。 ・歩幅が合わずハードルにぶつかったり転倒したりする。
事故防止 (指導内容)	<ol style="list-style-type: none"> ①逆側から跳ばない。 ②安全確認後、合図があってからスタートする。 ③児童の実態に合ったインターバルが洗濯できるように設定する。

<走り幅跳び(幅跳び)>

起こりやすい 事故	<ul style="list-style-type: none"> ・走路や場の不整備、着地時に、足首を捻る。
事故防止 (指導内容)	<ol style="list-style-type: none"> ①砂場をしっかりと掘り起こし、平らにする。 ②安全確認後、合図があってからスタートする。

<走り高跳び(高跳び)>

起こりやすい 事故	<ul style="list-style-type: none"> ・走路や場の不整備、着地時に、足首を捻る。 ・支柱に衝突する。 ・補助児童に支柱やバーがぶつかる。
事故防止 (指導内容)	<ol style="list-style-type: none"> ①着地場所にマットを設置する。 ②踏み切り地点を指定する。 ③補助児童の立ち位置を指定する。

③水泳(浮く・泳ぐ運動、水遊び)

起こりやすい 事故	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動の不足、急激な入水、過度の練習の疲労等による心臓発作や痙攣。 ・児童同士がぶつかったり、壁やビート板等にぶつかったりする。 ・衝突、潜水、ふざけ合いにより溺れる。 ・プールサイドで転倒する。 ・禁止行為の飛び込みでプールそこに強打する。
事故防止 (指導内容)	<ol style="list-style-type: none"> ①準備運動で、各関節部位を十分に曲げ伸ばし及び回旋する。 ②水慣れは、心臓に遠い箇所から順に水をかける。 ③入水は、後ろ向きになり静かに行う。 ④目を開けて泳ぐ。(ゴーグル着用可) ⑤間隔を十分にあけて泳ぐ。(特に平泳ぎ及びかえる足には十分配慮する) ⑥あせらず、慌てず、走らないで移動する。

	⑦監視体制を適切にとり、禁止行為等は即座に止める。
④ボール運動(ゲーム)※ ゴール型、ネット型、ベースボール型、鬼遊び等	
起こりやすい 事故	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士がぶつかり転倒する。 ・児童同士の接触やボールがぶつかり打撲する。 ・キャッチミスによりつき指や骨折をする。 ・ボールや他児童の足に乗ったり、バランスを崩したりして捻挫する。
事故防止 (指導内容)	<ul style="list-style-type: none"> ①危険行為について十分指導をする。 ②ルールを徹底する。 ③準備運動や慣らしの運動を十分行う。 ④コート近くに用具等を置かない。 ⑤用具の扱い方を十分指導する。

(3)事故発生時の対応

- 1 初期対応をする。
 - ①状況確認（本人および周りの児童）
 - ②怪我等の部位確認
- 2 （担任）・養護教諭・管理職への連絡をする。
 - ①自立歩行困難な場合は事故発生場所に対応
 - ②状況、怪我の程度の確認
- 3 保護者への連絡をする。
 - ①医療機関への受診が必要な場合は、保護者にも学校または医療機関に来てもらうよう要請
 - ②医療機関への受診の必要がない程度の場合は、児童下校までに事故状況の連絡
- 4 医療機関への受け入れを要請する。
 - ①保護者希望があれば確認
- 5 保護者との連携をする。
 - ①診断状況を確認
 - ②学校での配慮事項の確認
- 6 報告する。

